

(10)九州



九州地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

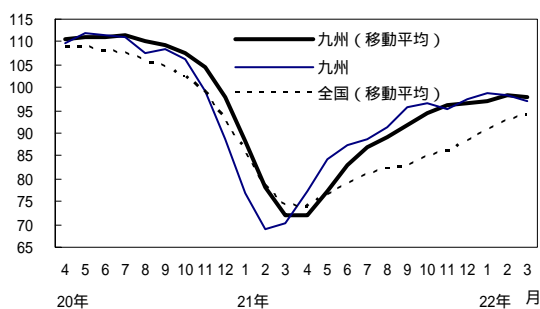
	前回(平成22年2月)	今回(平成22年5月)	
鉱工業生産	持ち直している	緩やかに持ち直している	
個人消費	持ち直しの動き	持ち直している	
住宅建設	大幅に減少	減少	
雇用情勢	厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やかになっている	厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

電子部品・デバイスは、クリスマス商戦の反動から、ロジック・マイコン等のモス型計数回路を中心に減少している。輸送機械は、国内外の需要増や新車投入効果から乗用車を中心に増加している。食料品・たばこは、ビールが振るわないものの、プロイラー加工品、配合飼料が増加している。一般機械は、半導体製造装置を中心に増加している。化学は、インフルエンザ関連医薬品の生産が落ち着いたことから、医薬品が減少している。

鉱工業生産指数



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。
2. 全国及び九州の大線は後方3か月移動平均。

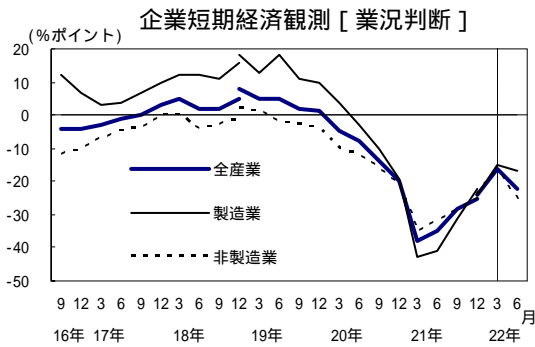
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
電子部品・デバイス	15.6	10.1	7.9	7.3	0.8
輸送機械	15.4	4.0	7.0	6.9	5.7
食料品・たばこ	10.6	2.9	3.0	2.0	4.6
一般機械	10.6	0.6	17.4	17.1	3.2
化学	8.2	13.1	4.5	5.2	3.1
鉱工業	100.0	4.8	1.6	2.2	1.1

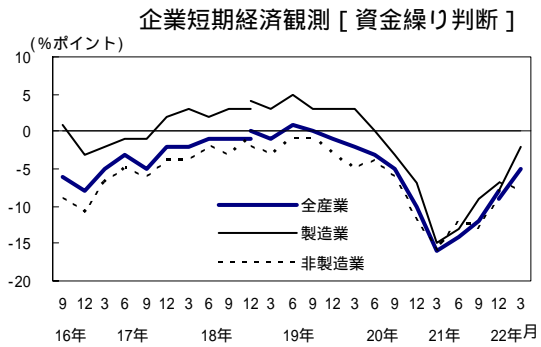
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 1~3月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

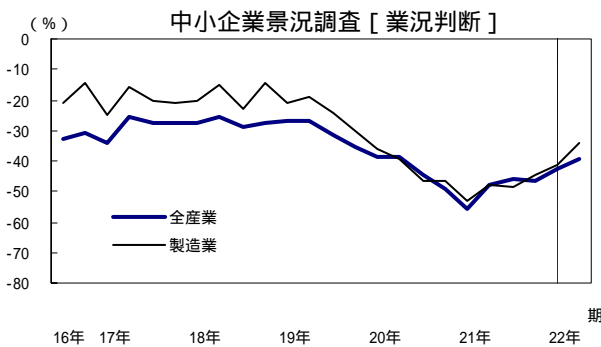
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年6月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。
九州(含む沖縄)地区のDI。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

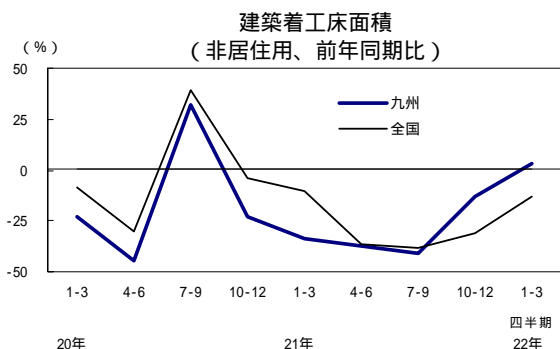
「半導体関連は順調に推移しており、受注量、単価共に良い状況で推移している。全般的にまだ今の景気自体は継続していく。また精密機械部門も同じような状況にある(電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績見込み	22年度計画
全産業	16.0 (1.1)	3.5
製造業	39.7 (1.7)	8.7
非製造業	0.7 (0.9)	1.3

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

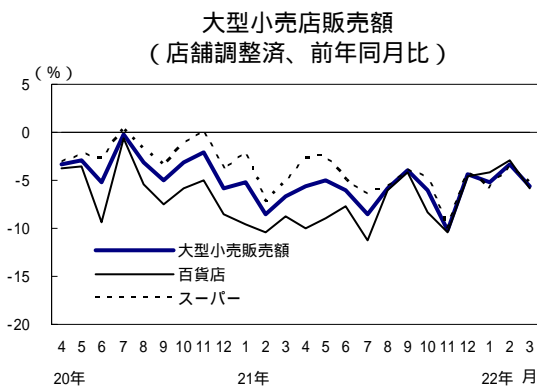
大型小売店販売額

百貨店は、1月は、初物セールや、後半に暖かい日が続いた影響から春物衣料品にも動きがあり、前年比の減少幅は縮小した。2月は、消費者の節約志向が引き続けているものの、春物衣料品が好調であったため、前年比の減少幅は縮小した。3月は、天候不順などの影響があるものの、春のバーゲンなどが好調であったことから、前年比の減少幅は縮小した。なお、日本百貨店協会によると、福岡地区の4月の売上高は、前年同月比6.3%減、福岡を除く九州・沖縄地区の4月の売上高は、前年同月比8.7%減となっている。

スーパーは、天候不順の影響などから全般的に振るわなかったものの、節分やバレンタイン関連等で、春物衣料品や飲食料品に一部改善がみられ、前年同期比の減少幅が縮小した。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

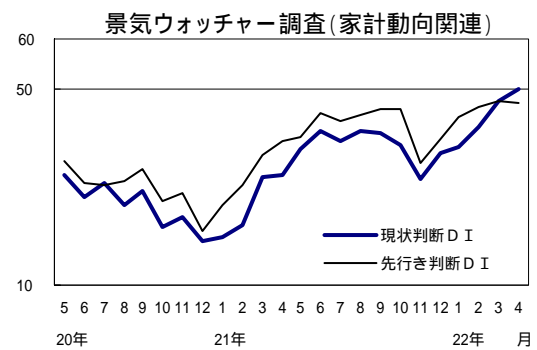
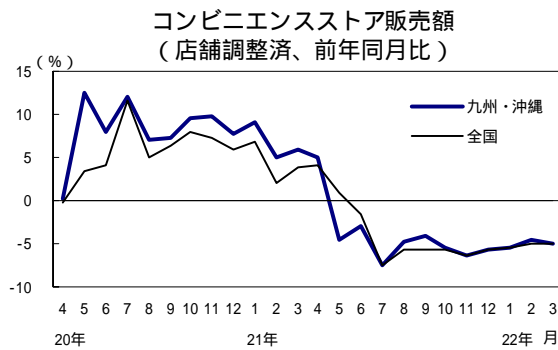
「前年12月から底を打った感は見受けられるが、売上は前年の水準を行き来しており、少し鈍化した感がある(その他小売の動向を把握できる者[ショッピングセンター])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比, %)

	21年4-6月	7-9月	10-12月	22年1-3月
大型小売店	5.5	6.3	6.6	4.8
百貨店	8.9	7.7	7.4	4.4
スーパー	3.4	5.5	6.1	5.0
乗用車	14.3	2.7	21.0	23.8
景気ウォッチャー	37.2	40.4	35.6	42.4

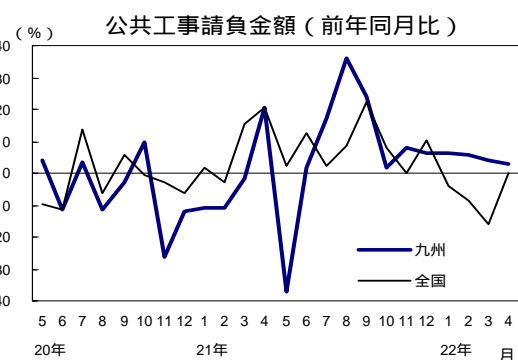
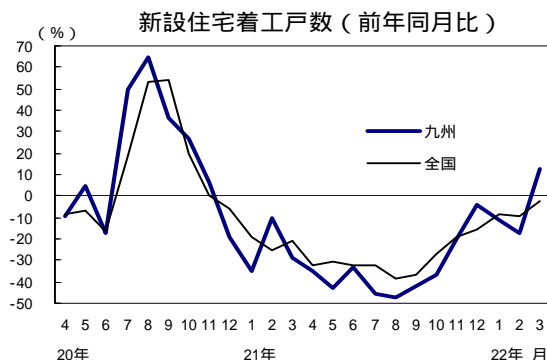
- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済、九州・沖縄地区。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は減少している。

持家が前年を上回ったものの、貸家、分譲が前年を下回ったことから、減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。

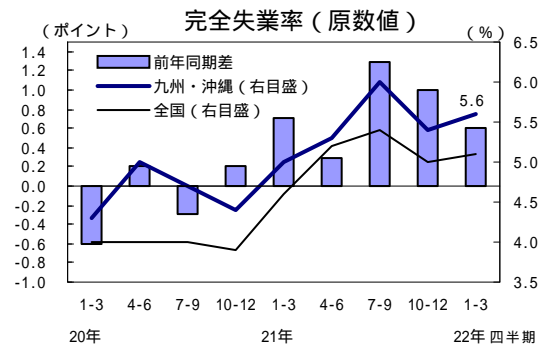
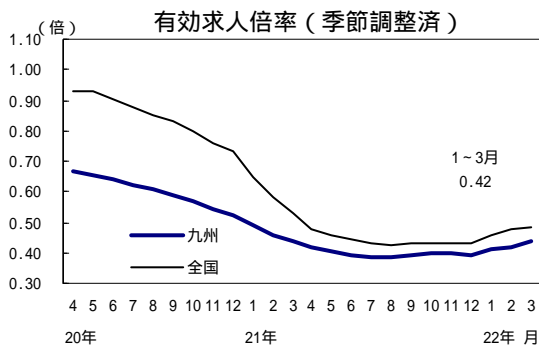


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人は倍率上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月) [雇用関連 (現状)]

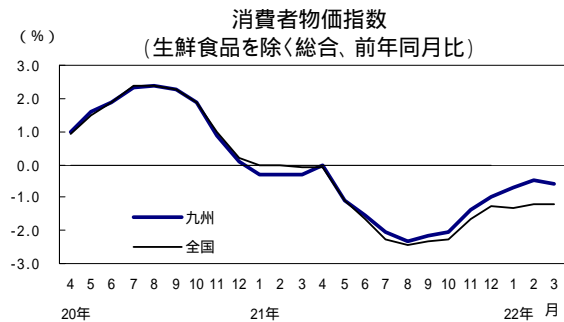
「時期的には求人受理件数が増加しているが、採用予定の人数は抑え気味のままである。また、学内で実施する採用セミナーへの申込状況は低調なままである(学校[大学])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年4-6月	7-9月	10-12月	22年1-3月	22年4月
倒産件数	283	242	249	215	61
(前年比)	19.6	32.2	31.6	19.2	23.8
負債総額	1,028	476	485	424	101
(前年比)	39.9	69.8	74.7	61.7	69.8



景気ウォッチャー調査 (4月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・NHKの大河ドラマの影響で、長崎への観光客が増えている。また修学旅行の客も増えている(タクシー運転手)。

<先行き>

・口蹄疫の発生により、畜産農家は中期的に厳しくなってくる。口蹄疫が解消すればある程度は回復傾向になるが、今の段階では厳しい(農林水産業)。

